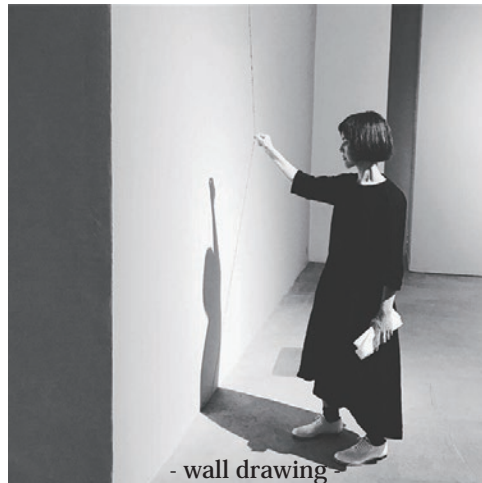


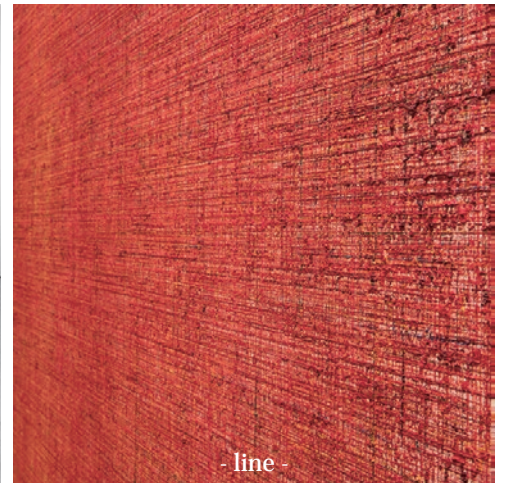
横溝美由紀 個展
「crossing points」



- red cage -



- wall drawing -



- line -

この度、ART OFFICE OZASA（京都）GALLERY RIN（京橋／東京）MARUEIDO JAPAN（赤坂／東京）では、国内外で活躍する横溝美由紀の個展「crossing points」を同時期に開催いたします。

横溝は、1994年に多摩美術大学彫刻科を卒業すると同時に本格的に作家活動を開始します。

サイトスペシフィックな大型のインスタレーションを得意とする横溝は、作家活動の早い段階からギャラリーだけでなく、水戸芸術館「criterium 37」（1998年）、埼玉県立近代美術館「プラスチックの時代」（2000年）、東京都現代美術館「傾く小屋」（2002年）、川村記念美術館「盗まれた自然」（2003年）など多くの美術館で作品を発表する機会を得ました。

2001年から、文化庁派遣芸術家在外研修員としてニューヨークに滞在、翌2002年に、自ら制作したおびただしい数のプラスチック樹脂製の石鹸と本物の石鹸を天井から吊り下げたカラフルなインスタレーション「please wash away」と、自然素材である塩を大量に敷き詰めた純白のインスタレーション「floating」を同時に発表します。制作中に身体に有毒なガスを発する化学物質と、生命の維持に必要な不可欠な天然素材である塩（塩化ナトリウム）を並列に扱い、「人工物と自然物」「虚構と現実」「死と生」といった対立的構造を軽やかに超えて、<9.11>直後のニューヨークに柔らかな光に満たされた静謐な光景を浮かび上がらせてみせました。

その後、Taipei Artist Village（台湾・2003年）、Chateau De La Napoule（フランス・2004年）、国際芸術センター青森（青森・2004年）、国際芸術研究センター（京都・2005年）、NAC（イタリア・2005年）など国内外のアーティスト・イン・レジデンスに参加、各地でサイトスペシフィックなインスタレーションを発表します。また2004年に、国際交流基金の世界巡回展「未来への回路 - 日本の新世代アーティスト」に選出され、今年2018年の春まで、15年間に渡り国外50ヶ国70回に及ぶ展覧会が開催されました。

本展覧会「crossing points」は、横溝が近年精力的に発表している「line」を京都と東京の3つの画廊を会場に、それぞれ異なる視点から多角的にアプローチし、その交わる視線の先に立ち現れる光景を探る試みです。

ART OFFICE OZASAでは、「line」の基となるインスタレーション「red cage」を、GALLERY RINでは、「線で織りなす宇宙」をテーマに掌中の作品を、そして、MARUEIDO JAPANでは、「line」の大作のほか、「red cage」と「line」を繋ぐ象徴的なインスタレーション「wall drawing」を中心に展示します。

「line」は、キャンバスに絵具という絵画の形式をとっていますが、横溝は彫刻と断言します。弓のように張った1本の糸に絵具をまといせ、その糸を指で弾く方法で制作される「line」は、時に1点の作品が完成に至るまで数千回となくその行為が繰り返されると言います。確かに行為そのものは彫刻的ですが、キャンバスという限られた矩形の中で繰り返される行為による痕跡は、複雑に絡まり合い次第に新たな空間を浮かび上がらせてきます。結果として作家の言葉から離れ、より絵画的なイリュージョンを生み、シンプルな表情の中に複雑な構造を抱え込んでいるように見えます。

日本で初めて制作される「red cage」は、「line」の基となるインスタレーションで、2003年台湾のTaipei Artist Villageに招待された際に発表されました。床面を真白に塗り、赤い液体を満たした透明チューブを空間全体に張り巡らせ、ミニマルで緊張感のある小屋(cage)を創出させました。台湾へ行く直前の健康診断の採血中に血液が一瞬止まったと語る横溝は、台湾に到着した直後に道端でおびただしい数の血痕を目撃します。(これらは後に血痕ではなく、覚醒作用のある檳榔による唾液の痕跡と判る。)真白で清潔な床に赤い液体で満たされたチューブは生命維持の為の装置を想起させますが、暖かな光に満たされた光景は、横溝の作品に一貫している覚醒された安らぎの場なのかもしれません。

「wall drawing」は、「red cage」と「line」とを繋ぐ象徴的な作品で、垂直に弾かれた、たった1本の糸の痕跡が、その飛沫と共にギャラリーの壁面に直に記されます。それはあたかも空間そのものを支持体とした絵画のようでもあり、床から天井まで立ち上がる絵画という名の彫刻のようでもあります。数百回、数千回と弾かれて制作される「line」もこの1本の痕跡から始まります。かつてフォントナが無垢なキャンバスを前にナイフで切り裂き、新たな時代を予見させたように「wall drawing」は空間そのものを切り裂く行為のように映ります。

この度、「line」と共に「red cage」、「wall drawing」を同時期に展示することで、初期のサイトスペシフィックなインスタレーションから、近年の自由度の高いキャンバスへと繋がる横溝の確たる意志が見てとれる貴重な機会となります。

ぜひ3会場のその交わる視線の先に立ち現れる光景をご高覧賜りますよう、何卒よろしくご厚意申し上げます。

ART OFFICE OZASA x GALLERY RIN x MARUEIDO JAPAN

【ART OFFICE OZASA】 crossing points - red cage -

主な展示作品 ・「red cage」(インスタレーション) 水、プラスチックチューブ、リノリウム 2018年

【GALLERY RIN】 crossing points - 線で織りなす宇宙 -

主な展示作品 ・「line - konpeki」 油彩、キャンバス 2018年
・「line - seiheki」 油彩、キャンバス 2018年

【MARUEIDO JAPAN】 crossing points - A Scene of Light -

主な展示作品 ・「wall drawing」(インスタレーション) 油絵具 2018年
・「line F100.172.2018」 油彩、キャンバス 2018年

横溝 美由紀 yokomizo miyuki

東京都生まれ

- 2005 国際藝術研究センター第1期研究員(宮島達男フェロー)
2001 文化庁派遣芸術家在外研修員(ニューヨーク)
1994 多摩美術大学美術学部彫刻科卒業

主な個展

- 2018 「crossing points -A Scene of Light」 MARUEIDO JAPAN(東京)
「crossing points -線が織りなす宇宙」 ギャラリー 麟(東京)
「crossing points -red cage」 ART OFFICE OZASA(京都)
「空形」 Art Issue Projects(台北)
「MIYUKI YOKOMIZO」 Noblesse Collection(ソウル)
- 2017 「synchronicity」 18th Street Arts Center(ロサンゼルス)
「光の箱 / グリッド」 Operation Table(福岡)
「集積・」 ギャラリー 麟(東京)
- 2016 「集積・」 ozasakyoto(京都)
- 2015 「DWELL」 ozasahayashi_kyoto(京都)
「in red」 gallery77(東京)
- 2005 「invisibility」 Galerie Aube(京都)
- 2002 「Please Wash Away」 Snug Harbor Cultural Center(ロサンゼルス)
New house Center for Contemporary Art(ニューヨーク)
- 2001 「Blue-Sky, Air, Empty」 パークタワーギャラリー(東京)
- 2000 「休息の光景」 セゾンアートプログラム(東京)
「Respite of Light」 Za Gallery(東京)
「Please Wash Away」 Za Gallery(横浜)
- 1999 「Green/ Wander from Place to Place」 双 Gallery(東京)
- 1998 「Raining, Criterium37」 水戸芸術館(茨城)
- 1997 「Please Wash Away」 Gallery Q(東京)
「Tranquility」 赤城高原ギャラリー MOVE(群馬)
- 1995 「Bath Room」 Gallery Q(東京)

主なグループ展

- 2018 Bae Sang-Sun|Miyuki Yokomizo 'Circle of Life' Gallery Lee & Bae(釜山)
「DIFFUSION」MARUEIDO JAPAN(東京)
- 2017 「クインテット III」 損保ジャパン日本興亜美術館(東京)
- 2015 「浮游する表象」 ozasahayashi_project(京都)
「INAUGURAL EXHIBITION」 ozasahayashi_kyoto(京都)
「Forest of Exponentials」 Paul Loya Gallery(ロサンゼルス)
- 2013 「FACE 2013 損保ジャパン美術賞展」 損保ジャパン東郷青児美術館(東京)
「KYOTO STUDIO」京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA(京都)
「KYOTO OPEN STUDIO 2013」 A.S.K(京都)
- 2012 「六甲ミーツアート 2012」 六甲山ホテル(神戸)
「KYOTO OPEN STUDIO 2012」 A.S.K(京都)
- 2011 「京都アペルト」 A.S.K(京都)
「マルチプル multiple」 prinz(京都)
「手術台の上の花とドラゴン」 Operation Table(福岡)
- 2010 「探索者 石井厚生 退職記念展」 多摩美術大学美術館(東京)
- 2008 「Mediations Biennale」 MONA INNER SPACES(ポズナン、ポーランド)
「CAMOUFLASH/Disappear in ART」 UNOACTU(ドレスデン、ドイツ)
- 2007 「国際芸術家会議ー CAMOUFLASH」 パティオ・アート・センター(ウッジ、ポーランド)
「Remembrance of things passing」 海岸通ギャラリー CASO(大阪)
- 2006 「DOMANI 『明日を担う芸術家たち』」 損保ジャパン東郷青児美術館(東京)
- 2005 「Ma」 Nac Gallery(ノヴァーラ、イタリア)
- 2004 「自然との会話」 国際芸術センター青森(青森)
「Chateau De La Napoule」(フランス)
- 2003 「Bodies+Space」 Taipei Artist Village(台湾)
「盗まれた自然」 DIC 川村記念美術館(千葉)
- 2002 「傾く小屋」 東京都現代美術館(東京)
「D.U.M.B.O Art Under the Bridge Festival」(ブルックリン、ニューヨーク)
「Art front/Waterfront-Site-Ations, The Staten Island North Shore」 Snug Harbor Cultural Centre,
New house Center for Contemporary Art(ニューヨーク)
- 2001 「Noriki Tokuda and Miyuki Yokomizo」 CAS Contemporary Art and Spirits(大阪)
- 2000 「プラスチックの時代、ART AND DESIGN」 埼玉県立近代美術館(埼玉)
- 1998 「閉じているという意識 -The Consciousness of the Inside」 ギャラリー日鉱(東京)
「様々な眼' 97」かわさき IBM 市民文化ギャラリー(神奈川)
- 1995 「The Whole Heart-1995」 Gallery Q(東京)

国際展出品

- 2008 「メディアエイション・ビエンナーレ」(ポーランド)
「CAMOUFLASH/Disappearing in Art UNOACTU」(ドレスデン、ドイツ)
- 2007 「国際芸術家会議招待作家」(ポーランド), 野村国際文化財団助成
- 2004-2018 「未来への回路-日本の新世代アーティスト」世界巡回

アーティスト・イン・レジデンス

- 2017 18th Street Arts Center (ロサンゼルス)
- 2004 Chateau De La Napoule(フランス)
国際芸術センター青森(青森)
- 2003 Taipei Artist Village(台湾)
- 2001-2 Snug Harbor Cultural Center(ニューヨーク)

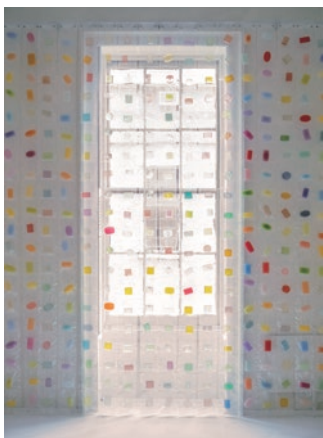
コレクション

- 2016 「with time」フォーシーズンズホテル(京都)
- 2014 「invisibility 2014」島津製作所本社ビル(京都)
「weave words 2014」ザ・リッツ・カールトン京都(京都)
- 2012 「invisibility 2012」パレスホテル東京(東京)
- 2011 「rain drop 2011」YAU TONG ESTATE 香港政府開発センタービル(香港)
- 2009 「spatio temporal」スカパー東京メディアセンター(東京)
- 2006 「raining 2006」麻布第一マンションズ六本木(東京)
- 2005 「raining-ananogawa」関西医科大学附属枚方病院(大阪)
- 2004 「please wash away」国際交流基金

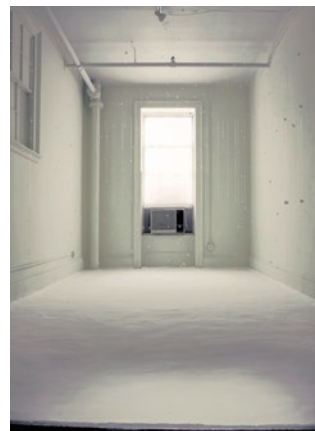
その他

- 装画 「背中の地図 金時鐘詩集」(2018年・河出書房新社デザイン・組版=鈴木一成デザイン室)
- レコードジャケット 「Swan Dive - You' re Beautiful」(1997年・ソニーレコード)
- ショーウィンドウディスプレイ設計 「shu uemura 表参道」
- ショーウィンドウディスプレイ設計 「PARCO part3」

< 参考画像 >



please wash away
plastic, vinyl | dimension variable | 2002
Artist in Residence project
at Snug Harbor Cultural Center, N.Y

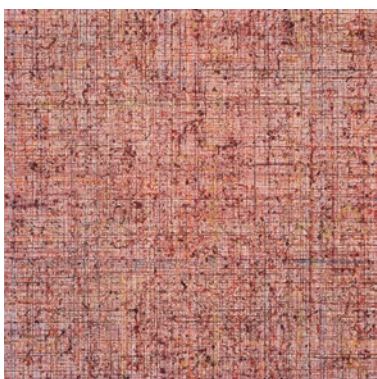


floating
rock salt, fishing line, table salt
| dimension variable | 2002
Art Front/Water Front—Site-Actions
The Staten Island,
Snug Harbor Cultural Center, N.Y,

photo©Gregg Stanger



red cage
plastic tube, ink, water | dimension variable | 2003
Taipei Artist Village



line S040.147.2018
oil on canvas | 100.0×100.0 cm | 2018



【各画廊開催要項】

オープニングパーティー

10月2日(火) 17時より MARUEIDO JAPANにて開催いたします。(作家在廊いたします。)

展覧会及び作品に関する問合せは、各画廊までお願いいたします。

<会場> ART OFFICE OZASA
<展覧会名> 「crossing points - red cage」
<会期> 2018年9月18日(火)~2018年10月20日(土)
<会場> 京都市上京区堅門前町414 西陣産業会館207(西陣織会館西館)
<時間> 11:00~18:00 *日月祝祭休み
<問合せ> 075-417-4041 mail@artozasa.com www.artozasa.com

<会場> GALLERY RIN 麟
<展覧会名> 「crossing points - 線が織りなす宇宙」
<会期> 2018年10月2日(火)~2018年10月20日(土)
<会場> 〒104-0031 東京都中央区京橋2-6-10 宝照ビル1F
<時間> 11:30~18:00 *日月祝祭休み
<問合せ> 03-3566-5558 rin@galleryrin.com www.gallerrin.com

<会場> MARUEIDO JAPAN
<展覧会名> 「crossing points - A Scene of Light」
<会期> 2018年10月2日(火)~2018年10月20日(土)
<会場> 〒107-0052 東京都港区赤坂2-23-1 アークヒルズフロントタワー 1F
<時間> 11:00~18:00 *金曜日のみ20時まで開廊 *日月祝祭休み
<問合せ> 03-5797-7040 info@marueidojapan.com www.marueidojapan.com



red cage | detail